

第7回グリーンイノベーション戦略会議 における委員からの主なご指摘

2021年12月
経済産業省
産業技術環境局

第7回グリーンイノベーション戦略推進会議における主なご指摘

御指摘のあった主な項目（概要）

1. 産業横断的視点：セクター間の連繋・セクターカップリングが重要。分野別フォローアップにおいては、各分野が横にどのようにつながるかを見える化すべき。横断的な観点から、新たな産業構造を組み替え、また、新たな産業を創出するための戦略・戦術を組み立てることが必要。
2. 2兆円基金・施策関連：従来のナショナルプロジェクトとGI基金プロジェクトとのシナジー、テーマ間連携、進捗管理が大切。施策間の連繋が重要。
3. グローバル市場獲得：海外市場獲得のため、ビジネスモデルや戦略の検討、法改正、技術の規格化・標準化についてもフォローアップすべき。長期目線をもった規制改革、国際ルール作りが重要。
4. トランジション・タクソミー関連：日本からの打ち出し、ASEANとの連携、海外展開が重要。
5. ネガティブエミッション技術：DACなど工学的技術に加えて、森林、海洋、農業など自然資源の活用、スマートアグリとの組み合わせが重要。
6. その他：対外発信強化が重要。研究者・技術者などの人材確保が必要。フロン・メタン分野で日本の技術が貢献できることは多い。

(参考) 第7回グリーンイノベーション戦略推進会議における委員の主な御指摘

1. 2兆円基金について、従来のナショナルプロジェクトとGI基金プロジェクトとのシナジー、連携も大切。
2. 基金の14テーマは良く整理されているが、テーマ間の連携が重要。トランジション・タクソミーを日本独自に打ち出し、ASEANとも連携することが重要。
3. メタン対応について日本は技術で貢献すべき。技術のみでなく、グローバル市場獲得のためのビジネスモデルや戦略の創出、法改正、技術の規格化・標準化戦略についてもフォローアップすべき
4. 多くの脱炭素シナリオでネガティブエミッション技術が必要。DACなど工学的技術に加えて、森林、海洋、農業など自然資源の活用も重要。研究者・技術者などの人材確保も必要。
5. スマートアグリとネガティブエミッションをうまく組み合わせることで新しい世界を創ることができるのではないかと。セクターカップリングも重要。
6. 引き続き、対外発信強化が必要。イノベーションに向けて、個別フィールドを繋ぐ意識が必要。フロン・メタン分野で日本に貢献できることは多い。規制改革は重要だが、技術をつぶすことの無いよう、長期目線をもった対応が必要。
7. トランジションに向けた戦略を世界に向けて発信すべき。基金について確実な進捗把握が必要。グリーン成長戦略のメリットを国民に周知することが重要。分野別フォローアップにおいては、各分野が横にどのようにつながるかを鳥瞰する見える化が重要。
8. 施策間の連繋が重要。横断的な観点から、新たな産業構造を組み替え、また、新たな産業を創出するための戦略・戦術を組み立てる必要。COP26を踏まえると、国民・報道への発信が重要。

9. 基金プロジェクトの進捗管理が重要。各分野バラバラにではなく全体として技術の連携や、供給側と需要側のマッチング等システムとしての取組が必要。司令塔が必要。
10. 基金プロジェクトのうち、二次エネルギー関連（水素・水電解・燃料アンモニア・合成燃料）について、需要サイドの動きが遅れないよう、早期の絞り込みが重要。カーボンニュートラルの開発を各国が行い、技術が固まると、国際ルール・規格が多く出てくる。ルール作りが大切。交渉に長けた人を育てるべき。
11. 国民の脱炭素に向けた意識の高まりが重要。トランジション・タクソミーは重要。国際的に広めてもらいたい。政策連携が重要。ネガティブエミッション技術について、CCSはコストになるとの心配もあるが、CCU、自然資源の活用、廃棄物の処理に使うなど、環境と経済と社会問題の解決に繋がるという視点が重要。
12. 「連携」がキーワード。プロジェクト間、技術間、政策間、セクターカップリング、戦略、産業構造など、様々な連携がある。トランジション、タクソミーなど国際ルールも重要。ネガティブエミッションはバイオ系、廃棄物系など様々。フォローアップではこうした点を踏まえ、「見える化」して進めて欲しい。